

富山経協



ノハナショウブ(解説・16ページ)

CONTENTS

- 2 第67回定時総会 講演会・座談会(報告)
- 6 TOP INTERVIEW
セキノ興産 関野光俊社長
- 8 調査報告
2012年春季賃金改定状況調査〈最終集計〉
- 10 業務日誌
- 10 Keikyo行事レポート
- 11 参加者NOTES
- 15 新会員紹介
- 15 会員の動き
- 16 INFORMATION (事業案内)
- 17 景況指標
- 18 おしらせ・行事予定

第67回 定時総会



一般社団法人 富山県経営者協会の第67回定時総会は5月28日(月)15時30分から、ANAクラウンプラザホテル富山・鳳の間で、421社(出席202社、委任状219社)によって開催された。

稲垣会長の挨拶の後、定款第15条により会長が議長となり、7議案について審議。いずれも異議なく満場一致で承認された。(議案は4頁掲載)

総会に先立ち、昨年の総会以降の叙勲受章者4名が、稲垣会長から紹介された。

総会終了後、富山国際会議場で、「100年企業・21世紀のグッドカンパニーを目指して」をテーマに、講演会・座談会を開催した。

講師のセーレン株式会社代表取締役会長兼社長川田達男氏は、「のびのび・いきいき・ぴちぴち」

理事会

5月7日(月)16時から、稲垣会長はじめ副会長7名と監事3名、専務理事が出席して、5月度理事会を富山経協・会議室で開催した。

稲垣会長の挨拶の後、第67回定時総会付議案件の①2011年度事業報告、②2011年度収支決算報告、③2012年度事業計画、④2012年度予算案、⑤会費見直しの件、⑥定款一部変更の件、⑦副会長人事の件ならびに新会員について審議し承認された。なお、田中、桑名両副会長から今限りでの退任の申し出があり、了承された。続いて理事スケジュールについて報告があり、それぞれ確認した。

叙勲受章者

旭日小綬章

富山日野自動車株式会社
代表取締役会長 小林 紀男 氏

旭日双光章

立山黒部貫光株式会社
相談役 金山 秀治 氏

旭日双光章

サクラパックス株式会社
代表取締役会長 橋本 敏宏 氏

旭日双光章

株式会社 源
相談役 源 浩 氏

講演会

「100年企業
21世紀のグッドカンパニーを目指して」



講師
川田 達男 氏



座談会



と働ける企業にしたいとの夢を社員と共有しながら、改革を断行。会社の仕組みを変えることで、存亡の危機に瀕した会社を蘇らせてきた取り組みについて講演した。

続いて、川田講師、稲垣会長、津田駒工業(株)代表取締役社長 菱沼捷二氏（石川県経営者協会会長）、朝日印刷(株)代表取締役会長 朝日重剛氏の4氏による座談会を行った。100年企業の歴史を紹介し、それぞれどのように新しいことに挑戦してきたかを話した。畠山直子氏がコーディネーターを務めた。

懇親会はANAクラウンプラザホテル富山・鳳の間で開催。開会に先立ち、稲垣会長から、新会員の富山大学、ファインネクス(株)、協伸静塗(株)、(株)渡辺功機、司法書士大島・杉本合同事務所、東京海上日動火災保険(株)の各社が紹介された。石井知事の祝辞の後、米屋新副会長が乾杯の発声をした。佐々新副会長が中締めした。

なお、講演会・座談会の内容は、富山経協講演録小冊子「不易流行④」にまとめ、会員企業に配布する。

懇親会



稲垣会長



石井知事



米屋副会長



佐々副会長

第67回 定時総会 議事

第1号議案 2011年度事業報告

会議、各種事業活動、協力事業活動について、議案書記載のとおり実施した。

定時総会は5月9日に、理事会は書面理事会を含め6回、政策委員会は4回開催した。会員懇談会は7月西部地区、9月富山地区、11月東部地区の3回開催した。広報調査活動は機関誌を隔月6回、小冊子を2冊発行、緊急課題アンケートを4回実施した。委員会活動は情報交換、人脈づくりの場にするなど、活性化に努め、昨年度より121名多い、1,264名に参加いただいた。研修実績は前年比188名減の3,949名の受講者数となった。受託事業として、インターンシップ活動事業、重点成長分野人材育成プログラムサポート事業の2事業を受託し実施した。

第2号議案 2011年度財務諸表承認の件

収支決算書

事業活動収支	
収入合計	97,111,202円
支出合計	114,679,948円
収支差額	△17,568,746円

投資活動収支	
収入合計	5,444,000円
支出合計	100,000円
収支差額	5,344,000円

財務活動収支	
収入合計	0円
支出合計	1,260,420円
収支差額	△1,260,420円

事業、投資、財務の各活動収支差額を合計した当期収支差額は△13,485,166円となり、次期繰越収支額は125,668,207円となった。

貸借対照表

資産の部	
流動資産	136,789,914円
固定資産	56,835,979円
資産合計	193,625,893円

負債の部

流動負債	14,787,202円
固定負債	7,523,850円
負債合計	22,311,052円
資産合計から負債合計を引いた 正味財産合計は171,314,841円とな った。	

第2号議案に関し、監事の山地清氏（富山信用金庫理事長）から「その内容は正確かつ妥当」との会計監査報告が行われた。

第3号議案 2012年度事業計画（案）審議の件

多様化する会員ニーズに対応し、経営課題の研究・広報、教育、研修の事業展開、会員相互の情報交換、労使関係の充実を目指した提案等を行い、会員企業のさらなる繁栄につなげていく。地域社会における経済団体の責任を果たすため行政の雇用安定や地域振興の取り組みへの支援を行い、他経済団体との連携を深め、地域社会の発展に努める。

①企業の存続なくして雇用はありえない。いわゆる6重苦の企業環境においては個々の企業の経営努力には限界があり、緊急雇用、人材育成対策などの公的な支援制度を会員企業が有効に活用できるように広報活動を進めていく。

②企業の繁栄の源泉は究極的には人材力である。会員企業各社の実情に適合し、そこで働く人により働きがいを感じる人事処遇制度の実現に向けての支援を強化する。

③外部からの刺激や文化、制度、技術に目を向ける。行政並びに他の経済団体との連携、さらには海外企業の取り組みを学ぶことにより、協会の各種事業の強化と充実を図っていく。

④公益的な機能を充実する。一般社団法人への移行を機に、公益

性を高める改革を逐次進めると同時に、経営者団体としての役割を果たすため、会員増強と会員相互協力のある委員会活動への各社担当責任者の参画を促進していく。

第4号議案 2012年度収支予算（案）審議の件

損益予算書

一般正味財産増減の部	
経常収益計	88,572,000円
経常費用計	102,379,000円
経常増減額計	△13,807,000円
経常外増減の部	
経常外収益計	736,000円
経常外費用計	0円
経常外増減額計	736,000円
一般正味財産増減額	△13,071,000円

第5号議案 会費暫定値下げ見直し審議の件

2009年度より3年間の期限で、会費30%値下げ、特別会費は0円としてきた。昨年度で期限は終了したため、改めて今年度は継続とし、2013年度より一般会費の値下げ率を15%、特別会費の0円は継続し、3年間の期限としたい。

第6号議案 定款の一部改訂審議の件

定款第5条法人の構成員に「個人」を追加する。第23条役員の任期に「増員により選任された理事の任期は、他の理事の任期の満了の時までとする」を追加する。第32、33、34、35条で、「事業推進機関」を追加する。

第7号議案 理事選任審議の件

北星ゴム工業株式会社代表取締役会長 米屋正弘氏、YKK株式会社副社長黒部事業所長 佐々裕成氏の2名を理事に選任する。

新副会長ご挨拶



北星ゴム工業株式会社
代表取締役会長
こめや まさひろ
米屋 正弘

このたび思いがけずも当協会の副会長に選任いただき誠に光栄に存じておりますが、その責任の重さに身の引きしまる思いであります。従来までは会員として理事会等に参画するなど特別な活動をするということもありませんでしたので正直いって戸惑っておりますが、私にとって良い勉強の機会を与えて下さったという思いで精一杯務めさせていただきます。

昨年の3月11日には未曾有の東日本大震災が発生し、大地震と大津波そして原発事故という複合災害となり多くの方が被災され被災地を始め経済、産業にも大きな影響を及ぼしました。

私達の業界もリーマンショック時は急激なダウンサイジングの経験をいたしました。今回の震災時はダウンサイジングに加えてサプライチェーンの震災被害によって原材料が調達出来なくなったり、又、昨年末のタイ洪水では生産委託先が被害を受け製品の入荷が停滞する等、又、逆に部品を供給する側になるなど予想もしなかった自然災害の連続で常日頃リスク分散の必要性を感じながらも実施をしてこなかった事に対する危機管理不足を痛感させられました。

日本経済はマイナス成長あるいは低成長が続く中、円高・ドル安・ユーロ安が進行し大企業を始め多くの中小企業も生産拠点を海外に移す傾向に有り国内の空洞化が心配されています。東日本の復興が日本経済の復興に寄与してくれる事を期待しております。

富山県経営者協会は地域の業種や規模を問わない経営者の集う経済団体として会員企業の発展に寄与することでしょうが、会員企業の皆様も協会の多彩な事業にも積極的に参画いただき企業のステップアップに結びつけていただく様、お願い致します。そのために微力ではございますが精一杯取り組んで参りたいと思っておりますので、会員の皆様の今後一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

1942年生まれ。1965年3月法政大学応用経済学部卒。同年4月北星ゴム工業(株)入社、1980年取締役総務部長、常務、専務、副社長を経て、2004年10月社長就任。2011年10月から代表取締役会長。



YKK株式会社
副社長 黒部事業所長
さっさ ゆうせい
佐々 裕成

「苦境の時代」からの脱却について思う

このたび図らずも当協会の副会長に選任いただき、誠に光栄に存じますと共に、その重責に身の引き締まる思いであります。

さて、2012年夏期に政府は各電力会社単位でのピーク電力削減目標を明示して、各企業・家庭への節電を要請しています。近年、円高・少子化・市場のグローバル化等に伴って、日本の製造業の海外シフトが進展して久しい今日この頃ですが、昨今の電力・エネルギー不足と価格高騰がこれに拍車をかけるのではと懸念しております。

かつて、プラザ合意による円高・オイルショック、バブル崩壊、リーマンショック等さまざまな危機が日本全土を覆いましたが、先輩達はこれをバネにあらゆる知恵と努力と行動力で、以前にも増して強靱な日本を造り上げてきました。

今、エネルギー・電力事情の苦しい中で、これを実感している私達がやらなければならない事こそ、「エネルギー・電力を効率的に使うモノ作り」、また「省エネルギー生活空間創り」であろうと思います。

遠くない将来、地球規模で予測されるエネルギー不足、また、日本国内における次世代に向けた産業基盤の整備及び技術開発のためにも、あらゆる分野でのエネルギーの高効率化を推進し、これをモデル化するチャンスの時期とも考えます。幸いにも富山県経営者協会の会員企業の方々は、多くの先端技術を保有しておられます。会員の相互連携、協力の中からモデル化に向けた取り組みが出来ればとの想いを強くしています。

尚、会員の皆様方のご指導ご助力を頂戴して、微力ながら稲垣会長を補佐し、会員企業の皆様方の発展にお役に立つ事が出来ればと考えております。宜しくお願い申し上げます。

1949年生まれ。1973年3月東京電機大学工学部卒、YKK(株)入社。ファスニング機械技術センター所長などを経て、2007年常務専用機械事業部長、上席常務工機事業本部長、2009年4月副社長就任。2010年4月から副社長黒部事業所長。

板金業と「共存共栄」 太陽光発電に活路

株式会社 セキノ興産
代表取締役社長

関 野 光 俊 氏



屋根、壁に限定した金属建材の加工卸の主力事業を、どのように展開されてこられたのでしょうか。

先代が高岡で銅器・仏具の商売を始め、戦後の混乱期に復旧物資の建築資材を取り扱い、徐々に金属建材の加工販売会社へと移行し、1960年代に富山へ本社を移しました。トタン板を扱うので加工も取り付けもする板金業者さんとは「共存共栄」です。建築工事の仕事量が縮小していく中でも板金業者さん

が利益を出せるよう、材料や工賃の面でコストパフォーマンスのある製品や加工法を提供することが一番大事だと思っています。

協同組合セキノ興産をはじめ、東日本を中心にグループ会社を展開されていますが…。

地域の顧客満足度を高めるためには、拠点ごとに単なる物流の配送施設ではなく加工センターを造る必要がありました。それらは営業拠点にもなっています。地域ご

とに別会社にして、お互いに良い意味で競争しながら発展していく仕組みにしました。エリアを拡大するとき、金属建材の需要は、一般住宅、非住宅も含めて雪国寒冷地で使用率が高いため、東日本全域にグループ会社が広がりました。拠点はどれくらいありますか。

61拠点あり、地元で育った人が店長になっています。別法人ですが、本社直轄です。主要な加工センターは4カ所あり、新潟の見附、千葉の野田、東北の北上と、西は滋賀の彦根が加工と配送を集約した工場になっており京都や大阪、和歌山周辺まで加工配送しています。新たに静岡県富士市に、太陽光発電システムの加工も行う新工場を建設し、昨年9月に稼働しました。

—売電事業に参入—

東日本大震災の影響は？

岩手県北上市にある岩手セキノ興産北上店はメーンのラック倉庫が被災し、クレーンも壊れ、半年休業しました。1億円近くの実損が出ました。今、この北上店の遊休地に1,800枚のソーラーパネルを並べ、出力約450kWの大型発電所を設置し、売電事業に乗り出す計画です。

太陽光発電は10年ほど前から事業展開されています。国の再生可能エネルギーの普及という追い風を生かすチャンスですね。

太陽光発電関係はまだ当社全体の売り上げの4～5%程度で、これを1割にすることが当面の目標です。元々ある雪止めのファスニング技術を活用して、金属屋根＋ソーラーをテーマにやっています。ソーラーシステムは取り付けが大変で危険な作業が伴うため、屋根のプロである板金・屋根建築業者

の仕事と考えて、太陽光の事業に乗り出しました。板金業者さんの仕事をなんとか確保したいというのが本音ですが。

再生可能エネルギーの「固定価格買い取り制度」の価格が決定し、7月に施行されます。震災復興の特需はありますか。

全量固定価格買い取りは、一般住宅は10年、非住宅・産業用は20年です。20年同じ価格で買ってもらえるのですから、10 kW以上の大型のいわゆるミニ発電所の見積もり依頼は増えていますし、今後とも増えると思います。復興特需は確かに被災地を中心にありましたが、今は少し下火になってきています。重い和瓦が崩れて、その補修が結果的に金属瓦か横葺きの屋根に置き変わっています。今後は補修だけでなく、それプラス太陽光パネルを載せる仕事を広げたいわけですね。

—電気のプロを育成—

太陽光発電需要増の対応策は。

今は専門の電気工事業者とタイアップしていますが、自前の電気のプロを育てるため、電気工事士の資格取得を推進しています。電気のプロがいないと10 kW以上の工事は難しいですし、もっと大型の工事に対応するためには、工事士の資格を持った人が経験を積んで資格を得られる電気管理技師も

必要になってきます。勉強を奨励し、電気も分かる人材を増やそうと考えています。

研究開発型企業を目指しておられますが、具体的な活動は。

社員からの報告書に提案の欄を設けて、アイデアを導き出すことをしています。アイデアが採用されたら報奨金が出ます。技術力のある板金業者とタイアップして共同でつくり、連名で特許申請をすることもあります。

経済産業省の中小企業のIT企業大賞2010を受賞されています。

事務処理、販売在庫管理、人事すべてのシステムを再構築しました。これで一挙に全国の拠点の在庫状況が分かり、在庫の無駄が解消しました。

—板金業のために省力化—

屋上緑化もしておられます。今後の展望は。

千葉の工場が手狭になり、増設するとき、工場立地法の緑化面積を満たすため、屋根の上を緑地にして、建屋面積を増やしたことがあります。これを機会に、屋根屋の新たな仕事として、屋上緑化の材料、工法の開発にも乗り出しました。

遊休地ともいえる工場の屋根の上を活用し、太陽光パネルをつけたら発電できる上に断熱効果もあるので、当社の郡山工場をモデル

ケースにしてノウハウをたくわえ、PRしていこうと考えています。

本業では、やはり新しい製品開発、工法開発が必要です。それプラス、ソーラー事業で頑張りたいと思っています。屋根や壁に関わることは板金業者の仕事にしていきたいというのが大前提です。今考えている面白い商品が、屋根の明かりとりです。

先代からのすすめで奈良の靈山寺にお参りしておられるそうですね。

今も毎月、お参りさせてもらっています。板金業者さんと一緒に先代が作った「七福講」という組織の中で、一昨年からは年1回、四国の88カ所巡りをやっています。**座右の銘を教えてください。**

先代が残した社訓を生かして申しますと、「不断努力」することから感謝の念が生まれ、「誠意精進」することから希望の道が拓け、「日々反省」の中から変化に対応する社風が醸成される。そして会社も繁栄、存続の基盤ができ、さらに堅実に成長しながら洗練されていく。これが経営の信条です。

会社概要

株式会社 セキノ興産

創 業：1938(昭和13)年12月
所 在 地：富山市水橋開発277-12
資 本 金：9億9,300万円(グループ全体)
事業内容：金属製屋根・壁材の加工販売、住宅機器・各種建材の販売、屋根及び外装工事の設計・施工管理、建築板金積算ソフトの販売、太陽光発電システム・オール電化機器の販売
従業員数：886名(グループ全体)
(2012年5月現在)
売 上 高：433億円(グループ全体)
(2011年7月期)
グループ会社：協同組合セキノ興産、(株)富山セキノ興産、(株)石川セキノ興産、(株)東海セキノ興産、(株)中越セキノ興産等、グループ計23社
U R L：http://www.sekino.co.jp/

— 略 歴 —

1943(昭和18)年生まれ。高岡市出身。早稲田大学商学部卒。旧松下電工勤務を経て、1969年セキノ興産入社。常務、専務を経て、1989年社長就任。

屋根に穴をあけない“キャッチ工法”で太陽光パネルを設置する ▶



調査報告

2012年春季賃金改定状況調査

1. 富山経協調べ

県内企業の賃金改定状況〈最終集計〉

107社加重平均2,849円、改定率1.10%

当協会は「2012年春季賃金改定状況調査結果（最終集計）」を取りまとめた。（表1）

それによると、県内企業117社から寄せられた回答のうち集計可能107社の改定額平均は2,849円で、改定率は1.10%となった。（いずれも加重平均）

業種別にみると、製造業60社の改定額平均は3,570円、改定率は1.39%。非製造業47社の改定額平均は2,321円、改定率は0.89%となっている。

改定額の分布は、「0円」が15社（14.0%）と最も多く、次いで「2,500円以上3,000円未満」が13社（12.1%）となった。（図表2）

また、改定率は、「0%」と「1.0%以上1.2%未満」が15社（14.2%）ずつと、最も多く分布している。

（図表3）

なお、「全業種」と「非製造業」では改定額・改定率ともに加重平均が単純平均を下回っているものの、「製造業」においては加重平均が単純平均を上回

っていることから、従業員規模が比較的大きい製造業がけん引して、前年調査結果に比較して改定額の上昇につながったものと推察される。

定期昇給、ベースアップなど賃上げの内容については、定期昇給のみ実施した企業が56社（49.6%）と最も多く、次いで定昇制度はないが昇給を実施した企業が24社（21.2%）となっている。一方、定

（表1）2012年 春季賃金改定状況調査結果（加重平均）

〔最終集計－2012年6月6日〕

（一社）富山県経営者協会

業 種	2 0 1 2 年			2 0 1 1 年		
	社 数(社)	改定額(円)	改定率(%)	社 数(社)	改定額(円)	改定率(%)
織 維	3	5,293	1.78	3	284	0.12
パルプ・紙・紙加工品	2	1,688	0.83	1	—	—
印 刷 ・ 同 関 連	3	2,734	1.25	2	2,827	1.27
化 学 ・ 薬 品	12	2,933	1.03	6	1,472	0.52
プラスチック製品	4	3,303	1.46	3	3,524	1.56
窯 業 ・ 土 石	1	—	—	1	—	—
鉄 鋼 ・ 非 鉄 金 属	1	—	—	1	—	—
金 属 製 品	5	2,987	1.30	4	2,366	1.04
一 般 機 械 器 具	13	4,043	1.64	5	2,077	1.05
電気機械・電子部品	6	2,843	1.18	1	—	—
輸送用機械器具	3	4,519	1.61	4	1,448	0.56
そ の 他 製 造 業	7	3,935	1.75	4	3,940	1.23
製 造 業 平 均	60	3,570 (3,191)	1.39 (1.26)	35	1,942 (2,695)	0.77 (1.09)
建 設 業	7	3,861	1.52	1	—	—
電 気 ・ ガ ス	3	2,735	0.98	1	—	—
情報サービス・通信	9	2,773	1.06	5	3,130	1.11
運 輸 ・ 倉 庫	11	1,959	0.80	7	1,696	0.66
卸 ・ 小 売 業	10	2,668	1.10	8	2,518	1.04
金 融 ・ 保 険	2	484	0.17	0	—	—
サービス業・その他	5	3,081	1.25	3	628	0.27
非 製 造 業 平 均	47	2,321 (2,814)	0.89 (1.15)	25	1,394 (2,579)	0.54 (0.93)
全 業 種 平 均	167	2,849 (3,025)	1.10 (1.21)	95	1,664 (2,647)	0.66 (1.03)

（注）① 改定額には、定期昇給等を含む。

② 平均欄の上段は加重平均、下段の（ ）内は単純平均である。

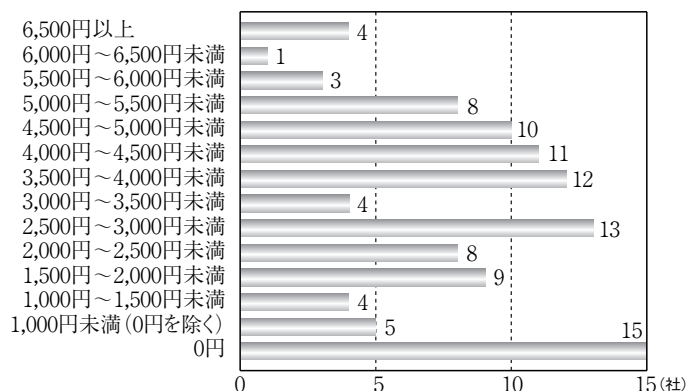
③ 当該業種1社のみの回答の場合は数字を伏せているが、平均には含む。

期昇給、ベースアップとともに「なし」とした企業も13社（11.5%）あった。

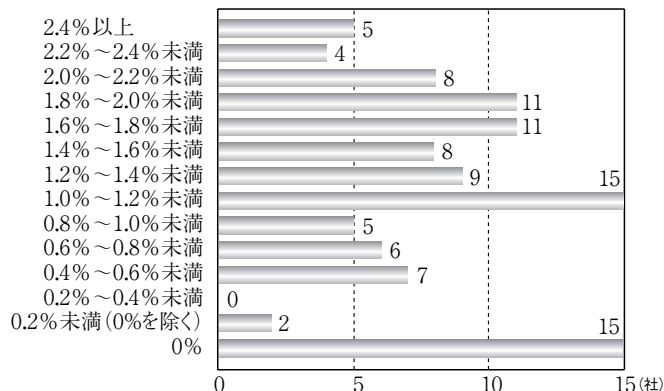
労使交渉に際して最も重視した要素としては、「企業業績」を挙げる企業が69社（76.7%）と最も多く、「世間相場」が13社（14.4%）、「労使関係の安定」8社（8.9%）と続いている。

〈最終集計〉

(図表2) 賃金改定額の分布



(図表3) 改定率の分布



2. 日本経団連調べ

春季労使交渉・全国の中小企業回答状況〈第2回集計〉

263社平均3,869円、賃上げ率1.54%

日本経済団体連合会は5月31日、「2012年春季労使交渉の中小企業業種別回答状況(加重平均)」の第2回集計を発表した。(表4)

調査対象(原則として従業員数500人未満の中小企業741社)のうち、267社(36.0%)で回答(了承・妥結を含む)が示されており、このうち平均額が分かっている263社の総平均は3,869円、賃上げ率1.54%で、昨年の第2回集計結果(4,422円、1.67%)と比べると、金額で553円、率で0.13ポイントのマイナスとなった。

業種別にみると、製造業181社の平均は4,272円、賃上げ率は1.65%で、昨年の第2回集計(4,767円、1.77%)よりも減少しているが、非製造業82社の平均は2,846円、賃上げ率は1.23%で、昨年(2,944円、1.22%)とほぼ同水準となった。

(表4) 2012年春季労使交渉・中小企業業種別回答一覧[了承・妥結含](加重平均)
〔第2回集計—2012年5月31日〕 (一社)日本経済団体連合会

業 種		2012年			2011年		
		社数(社)	回答額(円)	増減率(%)	社数(社)	回答額(円)	増減率(%)
製 造 業	鉄鋼・非鉄金属	9	4,456	1.74	12	4,587	1.85
	機 械 金 属	62	4,449	1.75	56	4,374	1.70
	電 気 機 器	17	4,062	1.56	11	3,568	1.43
	輸 送 用 機 器	7	3,866	1.61	8	5,716	2.00
	化 学	19	3,954	1.43	19	3,974	1.49
	紙 ・ パ ル プ	8	3,225	1.31	4	3,220	1.19
	窯 業	10	3,967	1.58	9	3,789	1.56
	織 維	16	3,355	1.46	10	3,433	1.43
	印 刷 ・ 出 版	8	5,226	1.83	7	4,687	1.60
	食 品	14	4,225	1.74	14	3,808	1.52
	その他製造業	11	5,305	1.74	11	5,319	1.74
製 造 業 平 均		181	4,272 (4,084)	1.65 (1.59)	161	4,767 (4,020)	1.77 (1.56)
非 製 造 業	商 業	29	3,336	1.40	23	3,476	1.45
	金 融	1	—	—	1	—	—
	運 輸 ・ 通 信	24	1,598	0.80	16	1,718	0.82
	土 木 ・ 建 設	6	3,593	1.42	4	4,498	1.43
	ガ ス ・ 電 気	9	3,766	1.37	2	4,391	1.36
	その他非製造業	13	2,971	1.30	11	2,006	0.90
非 製 造 業 平 均		82	2,846 (2,795)	1.23 (1.22)	57	2,944 (2,710)	1.22 (1.17)
総 平 均		263	3,869 (3,682)	1.54 (1.49)	218	4,422 (3,678)	1.67 (1.47)

(注) ① 調査対象は、原則として従業員数500人未満、17業種741社
 ② 17業種267社(36.0%)で回答が出ているが、このうち4社は平均金額不明等のため、集計より除外
 ③ 上記回答・妥結額は、定期昇給(賃金体系維持分)等を含む
 ④ 製造業平均、非製造業平均、総平均欄の()内の数値は、単純平均
 ⑤ 2011年の数値は、2011年5月27日付第2回集計結果
 ⑥ 集計社数が1社の場合など数字を伏せた業種があるが、平均には含まれる

業 務 日 誌

2012年4月3日～6月5日

	事 業 名	委員会名	開 催 日	場 所	参加者数
会 議	経営企画委員会	経営企画	4月9日(月)	富山経協・会議室	9名
	環境委員会「情報交換会」	環 境	4月25日(水)	富山経協・会議室	8名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	4月26日(木)	富山商工会議所ビル	20名
	理事会		5月7日(月)	富山経協・研修室	8名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	5月22日(火)	富山経協・研修室	23名
	定時総会・講演会・座談会		5月28日(月)	ANAクラウンプラザホテル富山 富山国際会議場	202社
セ ミ ナ ー ・ 講 座	新入社員講習会	教 育	4月4日(水)	富山県市町村会館	126名
	品質管理入門コース講座	品質管理	4月5・12・19・26日(木)	富山経協・研修室	28名
	管理職マネジメント研修(第8回)	教 育	4月17日(火)	富山県農業総合研修所	23名
	品質工学実践講座	品質管理	4月20・27・5月11・25日(金)	富山経協・研修室	27名
	品質管理セミナー 「実践しながら学ぶ統計の手法活用講座」	品質管理	5月10日(木)～	富山経協・研修室	26名
	管理職マネジメント研修(第9回)	教 育	5月11・12日(金・土)	富山県農業総合研修所	24名
	営業力基礎コース	教 育	5月16・17日(水・木)	富山商工会議所ビル	28名
	人事・労務管理セミナー(第1回)	人事・労務政策	5月18日(金)	富山経協・研修室	24名
	ビジネス・マナー習得コース	教 育	5月22日(火)	富山商工会議所ビル	40名
	中堅社員活性化コース	教 育	6月6・7日(水・木)	富山商工会議所ビル	56名

経営企画委員会

■2012年度第1回委員会

4月9日(月)、2012年度第1回経営企画委員会を守山委員長はじめ委員9名が出席して富山経協・会議室で開催し、経営企画に関わる研修等について審議を行った。

守山委員長より、委員会組織の見直しにより当委員会は常設の「経営企画委員会」となり、従来の活動に加え、新理事会からの特命事項に対応する役割を担うことになった。また、新しく副委員長を設けることになり、松本委員に就任いただく。本日は理事会からの指示事項である「事業継続計画(BCP)」と「グローバル人材」につ

いてご審議をいただきたいとの挨拶があった。

引き続き事務局より、①3月に会員企業を対象にBCPの現状調査を実施した。その結果、震災前はBCP策定済み・検討中79社(38.6%)が1年後は117社(55.2%)に増えたが、40%を超える会員では策定予定が無い。BCP策定済み企業では判定不能を除くと約85%の企業で計画は機能した。寄せられた要望は、「他社の取り組みを知りたい(96社)」「参考となる資料が欲しい(79社)」「勉強会の開催(53社)」などで、今後この要望に応える研修を企画していきたい
②県より、在職者訓練として「グロ

ーバル人材育成講座」を新しく立ち上げるに際して、共催を含めた協力依頼を受けている。経協会員向けや企業に出向くなどのオーダーメイドも対応可能であるため、当委員会が窓口となり具体的な進め方(研修の企画・開催など)を検討したいとの説明を行った。

審議の結果、①BCP研修については計画未策定の会員を対象に、BCPはこうあるべきではなく、実際に計画を策定することをねらいとした内容にする ②グローバル人材については、まず中国を対象とした研修から始めることを決めた。次回委員会は7月3日に開催する。

人事・労務政策委員会

■定例委員会

5月22日(火)、23名が出席して富山経協・研修室において開催した。

綿貫委員長の挨拶の後、事務局より、①中国上海への海外企業見学研修会の日程②富山県と連携して開催する「グローバル人材育成講座」について説明した。

情報交換会では富山労働局企画室長 太田勝久氏より、平成24年



度富山労働局行政運営方針について説明があり、改正派遣法の概要、雇用状況、秋に開催される全国労働安全衛生大会の概要などについて報告を受けた。

引き続き、県内ではじめて設立された、障害者雇用を促進する2つの新会社(特例子会社)について、アルビスクリーンサポート(株)執行役員管理本部副部長 澤江真吉氏、ならびに小林製薬チャレンジド(株)代表取締役社長 佐伯貴範氏より、設立の経緯、業態、これからの展開など、きめ細かな報告を受けた。

■人事・労務管理セミナー(第1回)

5月18日(金)、「メンタルヘルス実践対応～自律訓練法の習得」をテーマに、24名が参加して富山経協・研修室で開催した。



講師の公益財団法人 日本生産性本部メンタル・ヘルス推進課長 茨 昌明氏が、①最近の職場メンタルヘルスをめぐる課題②不調者が出てきた場合の対応、出さないようにする対応など、職場メンタルヘルスの取り組み方③ストレス対応力を高める方法などについて、最新のトピックを織り込みながら、事例を交えて詳しく解説した。また、セルフケアを実践するため「自律訓練法」を体験・習得した。



参加者NOTES

教育委員会

「2012年 新入社員講習会」を 受講して

ダイト株式会社 小林 康彦



富山県内の経営者や各界の講師の方々から、社会人としての心構えや職場でのマナーについてご講話頂きました。

となみの工業(株) 棚邊社長の講話では、社会、会社とはどのようなものかといった基本を教えて頂きました。紹介された中で、世阿弥の言葉である「守」、「破」、「離」は、我々新入社員が学び始めてから独り立ちしていくまでを表現しているものであり、未だ学生気分の抜けない我々にとってみれば、改めてはっとさせられるものでした。また、当たり前のことを当たり前に行えるようになることが社会人

としての心構えであり、基本であるということを感じさせて頂きました。

次に、金城大学短期大学部 岡野教授からは、周囲の人々への感謝が大切である。職業を主体とした人生の軌跡をつくるのがキャリアデザインであり、それをつくるためには、マナーが必要であり、その中にあるさまざまな法則を使い分けすることが、社会人生活の潤滑油であるということをお教わりました。

これらは今すぐ実践可能なことであり、日々の生活で心がけていこうと感じました。

最後に松田マネジメントアドバイザーからは、まず、我々が就職したのが“リーマンショック”に始まり昨年の“東日本大震災”など厳しい時代であったことを決して忘れることのないようにとおっしゃって頂きました。お話を伺い、仕事上での挨拶や礼儀等の基本的事項は社会人としての必須項目であると確信しました。

ついにスタートした社会人生活は今まで経験したことのない、約40年という長期間であります。そして今回の講義でご指導いただいた内容はすべての業界で通ずる社会人の基本であります。今後、我々が経験するすべてのことは容易ではないことも多く、何度も壁にぶつかるとは思いますが、その際には今回の講義を原点とし、その壁を乗り越えられるよう日々邁進して参りたいと思います。

教育委員会

■2012年新入社員講習会

4月4日(水)、県内企業各社の新入社員126名が参加して、富山県市町村会館で開催した。

(株)ピア 松原隆光代表取締役(当委員会副委員長)が挨拶の後、となみの工業(株) 棚邊一雄取締役社長が「新入社員の皆さんに望む」と題して講演。①社会人になるということは両親からの経済的・精神的自立②会社は「チームワークが重要」な組織③人間力を発揮で



きるチャンスを見つけて、自己研鑽しましょうなど、「会社」ってどんなところかや、社会人としての心構えについて指導があった。

その後、岡野絹枝金城短期大学教授から、挨拶・言葉づかい・身だしなみなど職場のマナー・ルール的重要性について指導を受けた。①顔に明るさ②目に力がある③言葉に勢いがあることが重要であるとし、元気に振る舞うための三要素について学んだ。

午後からは、トナミ運輸(株)バトミントン部 今泉勉総監督が「バトミントン 日本リーグ優勝への軌跡」と題し、体験にもとづいて講義をした。松田マネジメント・アドバイザーは、企業人としての心構え、仕事を通しての自己実現などについて講義した。

(「参加者NOTES」11頁に掲載)

■営業力基礎コース

5月16・17日(水・木)、28名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

公益財団法人日本生産性本部 小林定夫主任経営コンサルタントが、営業プロセス、営業戦術、新規開拓、営業マナー、既存取引先への深耕、営業報告などの基本的知識や技能について、詳しく解説した。また、ケーススタディ「なぜ受注したのか、失注したのか」によるグループ討議や新規開拓を



参加者NOTES

教育委員会

「営業力基礎コース」を受講して

北星ゴム工業株式会社
営業部 山崎 大輔



営業部に配属され2年が経過し、徐々に業務に慣れてきたところ、今回の「営業力基礎コース」受講の機会をいただきました。今一度自分の業務の見直しと、営業として疎かになっている部分を見つける事ができました。

2日間の講習では、資料による学習を行った後にディスカッション、ロールプレイングでの演習を行う事で、講習の内容を身に付け易かったように思います。

初日は「営業に求められるもの」、「営業プロセス」、「営業戦術」、「新規開拓」について学んだ他、新規開拓の営業シーンにおける良

い点と悪い点を挙げるスクリーン学習、顧客企業への初回訪問の仕方のロールプレイングを行いました。

講師の小林先生の実体験も交えた話の中で営業の役割と位置づけ、条件が異なる顧客へのアプローチ法から成約、アフターフォローへの流れ等を学び、営業をする上での戦術など、すぐ実践できるような技術はもちろん、その前に、各項目ごとに学習する際のポイントや必要性を押える事で適格に、高いモチベーションで講習に取り組むことができました。

2日目は「営業マナー」、「営業知識」、「既存取引先への深耕」、

「営業報告」の学習、グループを作った上での「ケーススタディ～なぜ受注できたのか、失敗したのか～」のディスカッションや、実際に客先で打合せを行うという想定での「営業演習」を行いました。ディスカッションを行う事で、社外の方の営業観を聞くことが出来たのは非常に有意義で、また、交流を深める事も出来ました。特に営業報告の重要性については、社内への情報展開の他、自身の行動管理に役立つという認識はあったものの、自身の能力を伸ばす取り組みであるという認識は無かったため、今まで以上に真摯に取り組むきっかけになりました。

営業の成果としての公式「行動＝意欲×(知識+能力)」を教わりました。知識と能力、それに意欲が合わさって行動力になる。行動力を上げるため、邁進していきます。

ケースにロールプレイング（役割演技）を実施した。参加者同士が相互評価や理想の営業活動について考えるなどし、これからの営業活動の実践に役立たせていく。

（「参加者NOTES」12頁に掲載）

■ビジネス・マナー習得コース

5月22日（火）、40名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

ビジネス・マナー講師でキャリア・カウンセラーの長谷川綾子氏は、ビジネス現場で活用するための正しい接遇・応対の基本と応用について、何故このようなマナーが決められているのか、どうすればスムーズにできるのかを、解説と実際のケースをもとにしたロールプレイングを交えて詳しく指導した。参加者は日頃から疑問に思っていたことが解決できた。会社で早速



実践してみたいなど実際の仕事に活かせる研修であった。

■中堅社員活性化コース

6月6・7日（水・木）、56名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

現代経営教育センター代表の大塚講師から、企業環境の変化と職場リーダーの役割・行動について学んだ。先を見据える技術を培い、備えることが大事であるとして、職場リーダーとして、①企業（職場）

環境の変化と リーダーとしての備え方②職場改善力と上司サポート力の磨き方③後輩指導とリーダーシップの取り方④長所の発見と自己改革のすすめ方について、ケーススタディなど演習や異業種交流を交えて学んだ。また、自己分析を通じて、自分の長所（強み・ウリ）を発見し、今後のキャリアアップを図ることが重要で、この先、「自己投資を怠らず、主体的に生きることが重要」であるとした。



品質管理委員会

■定例委員会

4月26日（木）、町野委員長はじめ委員20名が出席して、富山商工会議所ビル・95号室で開催した。



2012年度の事業計画について審議し、①講座の担当委員制度を継続する②企業見学研修会について、県内はYKK(株)黒部事業所、県外は長野方面の企業を選定する③定例委員会時の工場見学については、7月武内プレス工業(株)、2月(株)リッチェルで行うことで了解を得た。会議の後、「品質保証におけるIT活用」をテーマに、3班に分



かれ、委員企業における状況や問題点等についてグループディスカッションを行った。

■品質管理入門コース講座

本講座は、QC7つ道具の使い方と品質管理の基本的な見方・考え方を学ぶことをねらいに、初めて品質管理を学ぶ人から、品質管理の導入を図っている人を対象に毎年開講している。

第55回品質管理入門コース講座（4月開催）は、4月5日（木）から4日間の日程で、28名の受講者を

得て、富山経協・研修室で開講し、4月26日（木）に閉講した。

企業をとりまく厳しい環境の変化に対応するため、現場から管理部門まで企業をあげて改善・改革活動が行われており、参加者は真剣に受講していた。

（「参加者NOTES」14頁に掲載）



■品質工学実践講座

第18回品質工学実践講座を、4月20日（金）から10月12日（金）までの10日間の日程で、富山経協・研修室を会場に、27名が参加して開講中である。

今回から「担当者と上司のペア受講」を推奨し、7組14名はペア受講している。また、開講初日には、日本規格協会参与工学博士 矢野宏氏が「品質工学で何ができるか」をわかりやすく解説されるため、受講者以外で5名が聴講した。



品質工学(タグチメソッド)は、技術のコンセプトの良否を的確かつ速やかに診断するために非常に有効な評価技術である。

本講座は、「品質」と「コスト」の目標を達成するために、少人数制の個別指導方式をとり、受講者が抱える問題、ひいては企業が抱える問題の解決に具体的に取り組んでいる。

■品質管理セミナー

実践しながら学ぶ

統計的手法活用講座

第56回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座を、5月10日(木)から10月11日(木)までの15日間のロングラン日程で、富山経協・研修室を会場に、26名が参加して開講中である。

本講座は、企業における改善・改革活動を推進し確実に成果を上



げるために、自ら問題点を見つけ、考え、行動する人材の育成をねらいに、講義と職場の問題をテーマ登録し、グループ別に担当講師からカウンセリングを受けながら、品質管理手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめるという講座である。

受講者は、他企業の参加者と交流を図りながら自己完結力の向上を目指し、折り返し点を迎えている。

参加者NOTES

品質管理委員会



日産化学工業株式会社
品質保証室
中谷 陽介

講義は、日本における品質管理の導入・現在に至るまでの遍歴から始まり、講話と実践を交えたわかりやすい内容で、日常生活ではあまり意識していなかった題目でも入り込みやすかったです。

お客様の事を第一に考え、製品の品質を根本から考えて全社的にコントロールするという考え方は理にかなっていて、カンやコツ、小手先の技術でその場をどうにかする考えを改めていかなければならないと思いました。

「QC 7つ道具」の講義と実践では物事を理解するための統計データをあらゆる手法を学び、とにかく見る人に正確でわかりやすいデータを見せるために考え出されたこの手法は、普段の生活でも大いに役立つかと感じました。

品質管理という考え方を直感に近い感覚で使えるように、この講義で学んだ事を仕事でも日常でも積極的に実践していきたいと思いました。



となみの工業株式会社
山口 恭平

私は今、製造業の会社に勤めています。昨年の4月からラインリーダーという役職を与えられた事と上司の勧めもあり本コースの受講を希望しました。

品質管理という言葉聞いたことはあるけれど、詳しい内容はわからなかったので、講座を受けるにあたって、初めは不安がありました。しかし演習で実際にグラフを作成してみるなど、とてもわかりやすい講座だったと思います。

特に印象的だったのが、作成したグラフが作成する人によって全く違ったものに見えてしまうという事でした。私は自分がそのグラフを理解していても、他の人には理解しづらい。そういったグラフになってしまう事もあると考えました。それではデータをグラフ化した意味がなく、誰でも理解しやすいグラフを作成する事が重要だと感じました。

グラフで問題点を読み取る事が、問題解決に近づけると思うので、受講した事が無駄にならないよう、今後の業務に役立てていきたいと思っています。

環境委員会

■情報交換会

環境委員会では、例年「事例発表会」を開催し、会員企業各社の環境取り組み事例を発表している。参加者からは「小さな事実でもいいので、もっと具体的な取り組みやどんな問題があったか生の声を聞きたい」等の声が多く寄せられた。これらの意見を受けて、昨年度から事前に「情報交換会」を立ち上げ、その中で情報交換された



具体的な環境取り組み事例を取りまとめ、「事例発表会」で紹介することとした。メンバーを募集したところ、今年度は9名の申込み

があった。

4月25日(水)、第1回目の「情報交換会」を、8名が参加して富山経協・会議室で開催した。

メンバー自己紹介の後、メンバー企業発行のCSR報告書の紹介、情報交換したい希望テーマの聞き取り等をした。

次回以降、「環境取り組みとコスト」をテーマに、情報交換することにした。

新会員の紹介

(50音順)

■協伸静塗株式会社

所在地 高岡市吉久1丁目352-2
代表者 代表取締役社長 加藤 一博
創業 1980(昭和55)年1月
資本金 3,500万円
従業員 63名
事業内容 金属製品の皮膜処理、塗装加工、一貫表面処理



■国立大学法人 富山大学

所在地 富山市五福3190
代表者 学長 遠藤 俊郎
設立 2005(平成17)年10月1日
従業員 2,150名
事業内容 高等教育機関(教育及び研究)



■ファインネクス株式会社

所在地 中新川郡舟橋村舟橋415番地
代表者 代表取締役社長 松田 登
創業 1969(昭和44)年3月
資本金 2億9,967万円
従業員 275名
事業内容 エレクトロニクス部品端子製造、コネクター製造



■株式会社 渡辺功機

所在地 下新川郡朝日町月山87番地
代表者 代表取締役 渡辺 功
創業 1978(昭和53)年6月1日
資本金 7,500万円
従業員 32名
事業内容 自動化機械、搬送機、乾燥炉、食品機械の製造



会員の動き

(50音順)(敬称略)

■代表者の変更

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 富山支店
支店長 花井 一浩(前:田中克治)

株式会社 大塚製薬工場 富山工場
工場長 弓野 雅一(前:森口博文)

金剛薬品株式会社
代表取締役社長 黒瀬 雅男(前:米田祐康)

となみの工業株式会社
取締役社長 梶 秀一(前:棚邊一雄)

富山地方鉄道株式会社
代表取締役社長 川岸 宏
(前:代表取締役会長 桑名博勝)

日本興亜損害保険株式会社 富山支店
支店長 長谷川哲也(前:山田 肇)

日本高周波鋼業株式会社
常務取締役富山製造所長 久留島 靖章
(前:専務取締役富山製造所長 永尾卓己)

日本通運株式会社 富山支店
支店長 細井 詩郎(前:宮川治樹)

株式会社 福井銀行 富山支店
支店長 堀内 雅俊(前:吉田時男)

北銀ソフトウェア株式会社
取締役社長 庵 栄伸(前:松井泰治)

北陸電気工業株式会社
代表取締役社長 津田 信治
(前:代表取締役会長 野村正也)

■社名の変更

一般財団法人 北陸電気保安協会
(前:財団法人 北陸電気保安協会)

■所在地変更

特定医療法人財団 五省会(西能病院)
〒930-0866 富山市高田70(西能病院1階)
(前:富山市五福1130)

株式会社 新日軽北陸
〒932-0122 小矢部市浅地130番地
(前:高岡市本郷2丁目5番8号)

BCP事業継続計画作成セミナー(3回シリーズ)

自然災害や新型インフルエンザ、火災などの緊急事態が発生しても、あわてず的確に対応し、早期に事業を復旧させ、事業継続を可能にするため、「BCP(事業継続計画)」を作成することの必要性が高まっています。先行する他社事例を学び、受講者の相互啓発を通じて、自社版BCPを作成します。

■開催日：基礎理論コース 7月9日(月) ■時間：各日13:00～17:00
 自社版作成コース 7月30日(月) ■場所：富山県経営者協会・研修室
 事例研究コース 8月21日(火)

■講師：ヒューマックス経営考房 代表 ■受講料：会員 20,000円
 中小企業診断士 羽田野 正博 氏 会員外 40,000円

部課長マネジメントコース講座

経営幹部候補者である部課長を対象に、企業のおかれた状況を正しく理解し、会社方針や自らの役割と責任を念頭におきながら、企業が抱える問題を中核になって解決する方法を、グループディスカッションを中心に実践的に学びます。異業種の部課長との相互交流・啓発も促進できます。

■開催日：7月11日(水)～13日(金) 9:00～14:30
 (2泊3日)

■場所：山田村交流促進センター

■講師：玉川大学 工学部長 小野 道照
 となみの工業(株) 代表取締役社長 棚邊 一雄
 コーセル(株) 相談役 飴 久晴

■受講料：会員 80,000円／会員外 100,000円



表紙の花 ノハナショウブ

どちらも優れていて選び迷うことを「いずれアヤメかカキツバタ」といいますが、もう一つ忘れてならないのがノハナショウブです。

今年も6月22日から7月1日まで、県民公園頼成の森で「花しょうぶ祭り」が開催されます。花しょうぶは日本で生まれた園芸植物で、品種の数は2,000を超えるといわれており、約600品種70万株が頼成の森・水生植物園にも植栽されています。これらの品種の基になった原種がノハナショウブなのです。

ノハナショウブは富山にも自生しており、平成18年の調査では8箇所で見つかり確認されています。標高0～500mの丘陵地のため池や湧水の出ている斜面下部に生育していますが、湿地の開発や園芸目的の採取によって個体数が減少していることから、平成23年度に県がまとめたレッドデータブック改訂版では準絶滅危惧種に指定されました。

アヤメ、カキツバタ、ノハナショウブの3種はよく似ていますが、アヤメが乾いた草原に生える

のに対してカキツバタとノハナショウブは水辺に生えること、外花被片(がいけひへん＝一番大きな花びら)の基部がアヤメでは網目模様なのに対し、カキツバタは白色、ノハナショウブは黄色であること、ノハナショウブの葉の中央には太い脈があること、などで区別することができます。花しょうぶがノハナショウブから品種改良された証拠に、花しょうぶの花の色はいろいろ違っていても外花被片の基部は黄色くなっており、葉には明らかな中央脈があります。花しょうぶ祭りを訪れて、ぜひ確認してみてください。

余談ですが、5月5日の端午の節句に沸かす菖蒲湯(しょうぶゆ)に使用するのは全く別の植物で、サトイモ科のショウブです。葉と名前がよく似ていますが、花しょうぶやノハナショウブ、アヤメ、カキツバタなどは有毒で、汁液が付くと皮膚炎を起こすおそれがあります。

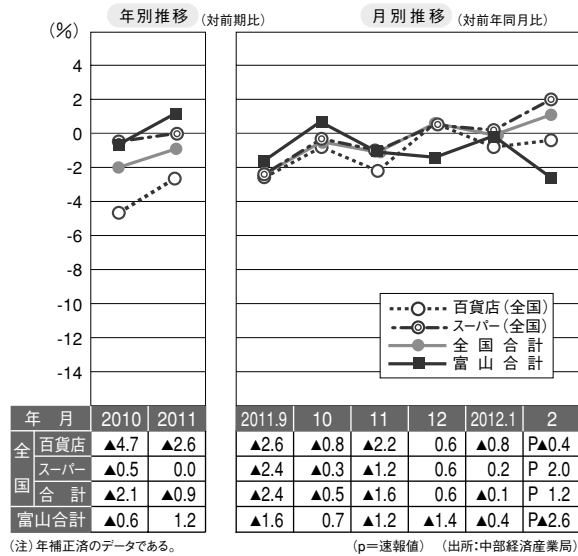
(富山県中央植物園 中田政司)



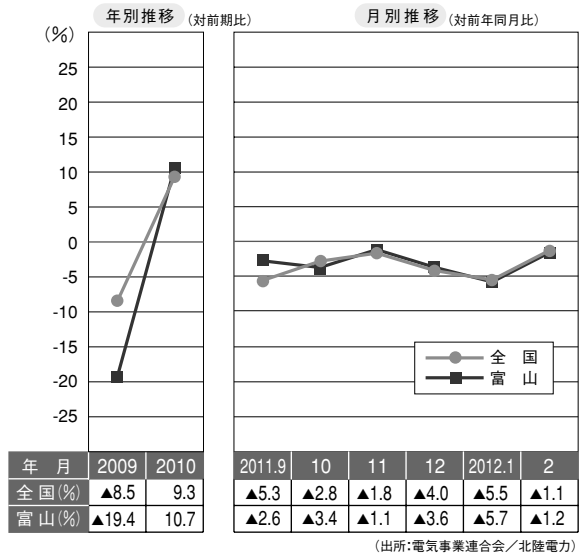
花しょうぶ‘古都の夕日’

景況指標

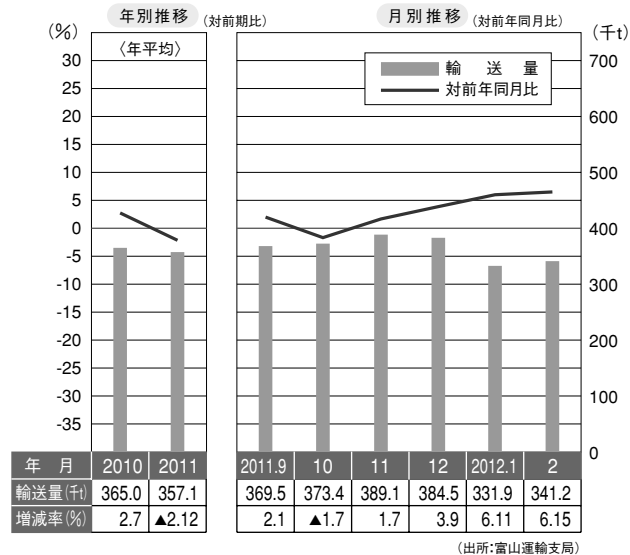
百貨店・主要スーパーの売上高



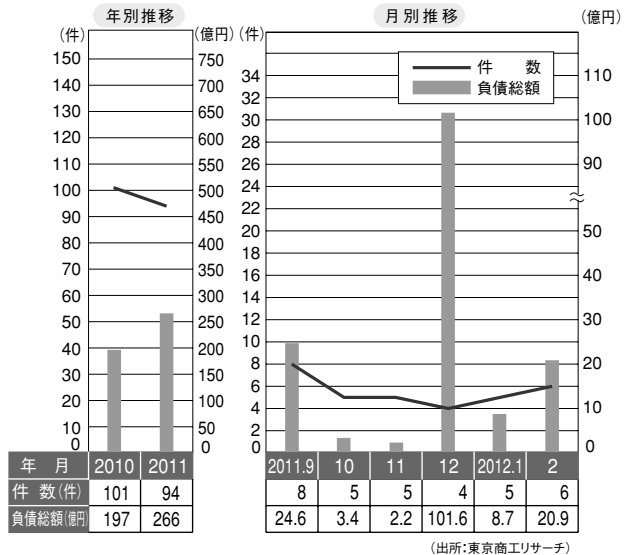
大口電力消費量 (製造業計)



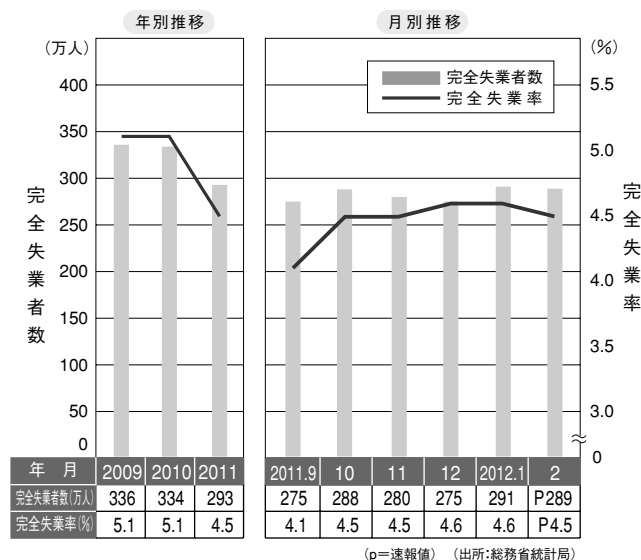
一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



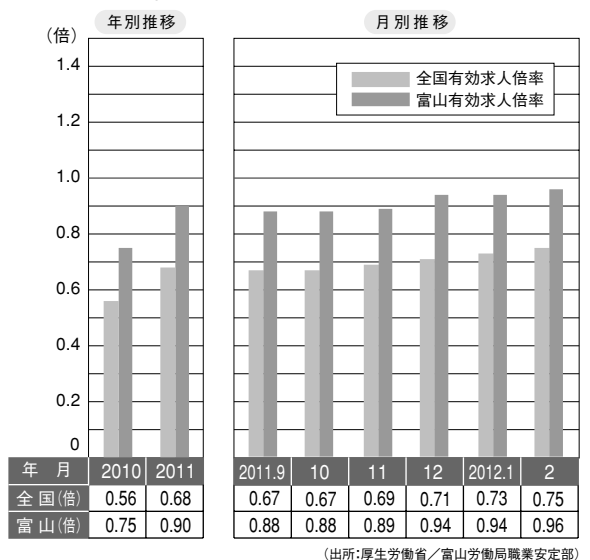
企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



お知らせ

◆ 西部地区会員懇談会 ◆

7月12日(木)

(別途ご案内申し上げます)

場 所：ホテルニューオータニ高岡 4階 鳳凰
高岡市新横町1番地 TEL (0766) 26-1111

17:40～18:40 コンサート

出演 岡田 修 (津軽三味線演奏家)

18:45～20:00 懇親会

多数の方のご出席をお待ちしております。

行 事 予 定

2012年 6月18日～8月10日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・講演案内」をご覧ください。

	開 催 日	時 間	事 業 名	委員会名	場 所	備 考
会 議	6月19日(火)	16:30～18:30	労働法関連法制研究部会(第1回)	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	6月20日(水)	14:00～15:30	教育委員会 研究部会(第1回)	教 育	富山経協・研修室	
	6月20日(水)	16:00～17:30	教育委員会「定例委員会」	教 育	富山経協・研修室	
	7月 3日(火)	16:30～	経営企画委員会	経営企画	富山経協・会議室	
	7月 6日(金)	15:00～17:00	北陸三県経協正副会長会議		石川県 PFU ProDeセンター	
	7月12日(木)	17:00～17:30	会長・副会長会議		ホテルニューオータニ高岡	
	7月12日(木)	17:40～20:00	西部地区会員懇談会		ホテルニューオータニ高岡	上記「お知らせ」参照
	7月18日(水)	15:30～17:30	富山県工業教育振興会 総会		富山電気ビル	
	7月24日(火)	14:00～16:00	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	武内プレス工業(株) 滑川本江工場	
セ ミ ナ ー ・ 講 座	6月18日(月)	9:30～16:30	グローバル人材育成セミナー	経営企画	富山経協・研修室	
	6月19日(火)	13:30～16:30	労働法実務研修会(第1回)	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	6月21・28・7月5・ 19・26・8月2日(木)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計の手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室	
	7月3・4日(火・水)	9:30～16:45	監督者(係長・主任・班長)基礎コース	教 育	富山商工会議所ビル	
	7月6・27日(木)	9:00～16:00	品質工学実践講座	品質管理	富山経協・研修室	
	7月9・30日(月)	13:00～17:00	BCP事業継続計画作成セミナー	経営企画	富山経協・研修室	16頁INFORMATION参照
	7月11日(水)～13日(金)	9:00～14:30	部課長マネジメントコース講座	品質管理	山田村交流促進センター	16頁INFORMATION参照
	7月24日(火)	9:30～16:00	人事・労務管理セミナー(第2回)	人事・労務政策	富山経協・研修室	
	8月 8日(水)	9:30～16:30	女性社員活性化セミナー	教 育	富山商工会議所ビル	
	8月 9日(木)	14:00～16:30	県内企業見学研修会	品質管理	YKK(株)黒部事業所	

「富山経協」vol.800

2012年(平成24年)6月号
2012年6月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>

Eメール info@toyama-keikyo.jp